

無料手回り品の範囲をこえる物品は、車船内への持込みを禁止しているが、旅行の性質上車船内に携行しなければ旅行の目的を達しない場合があり、手小荷物として託送するにしても荷物の性質上一般運送に適しないものもあるので、つぎの物品については、手回り品持込料を収受して車船内への持込を許している。

- (1) 巡回医療班が携行するレントゲン機械
- (2) 巡回映画班が携行する映写機械
- (3) 自転車振興会連合会の発行した選手登録証票を所持する者が携行する、解体してズックに収納した競輪用自転車

(4) 前各号のほか、手荷物として託送できる容量程度の物品であって、鉄道・航路区間にあつては鉄道管理局長、自動車線区間にあつては乗務員が特に持込を承認したもの。なお鉄道管理局長がとくに持込を承認したときは、右の様式による制限外手回り品持込承認書を交付してその証とする。

有料手回り品を車船内に持込む旅客に対しては、つぎの様式

承認第 手回り品持込承認書 号	乗有容量 車効積名 区期・個 間間長さ・数 重量	携行者 氏住 名所	年齢
昭和 年 月 日	鉄道管理局長 公印		

第1種手回り品切符(鉄道・航路用)

6.5cm	表
	◎ 甲(旅客) 日本国有鉄道 (鉄道・航路用) 手回り品切符 1個につき 何円 い 1072月.....日().....駅 ----- (鉄道・航路用)手回り品切符 料金 何円 い 1072 乙(審査)月.....日().....駅 ----- 4cm
	裏
	◎ 注 意 1 この切符は、手回り品の見やすい箇所にくり付けて下さい。 2 この切符は、鉄道及び航路を通じ御乗車船1回限り有効です。 3 この切符は、下車駅で係員にお渡し下さい。 4 手回り品については、日本国有鉄道は保管の責を負いません。
	5.5cm

の手回り品切符を交付して、手回り品持込料を収受する。ただし手回り品切符の設備のない駅においては、諸料金切符によって手回り品持込料を収受し、駅名札に所定事項を記載して交付する。

手回り品持込料はつぎのとおりであつて、持込承認料としての性格をもつものである。

- (1) 自動車線内のみの場合 1個について20円。
- (2) 鉄道・航路のみの場合 1個について60円。

第2種手回り品切符(自動車線用)

1.5cm	○	○
3cm	(省 略)	No. 76
3cm	(省 略)	No. 51
3cm	(省 略)	No. 26
3cm	冊 No. 46 (自動車線用) No. 1	
	手回り品切符	
	料金1個何円・片道1回限り有効	
3cm	月	日
	30 20 10 1 2 3 4 5 6 7 8 9	
	5cm	

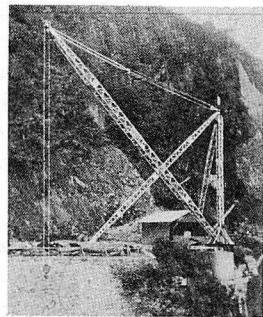
(金田政吉)

てみやせん 手宮線 函館本線南小樽駅から手宮に至る2.8kmの函館線に属する乙線。

この線は石炭の船積を主たる目的として建設された北海道開拓幌内鉄道線の一部として、明治13・11開通したものであるが、小樽築港駅に近代的な石炭船積施設が設けられ、また浜小樽駅の岸壁が整備される等により、手宮駅は水陸連絡駅としては他の駅の補助的なものとなり、この線は現在では専用線扱関係貨物が主たるものとなっている。(森 梯寿)

デリッククレーン (英) derrick crane 垂直柱の根元から斜めのブームを出した回転式クレーンのことで、フックまたはバケットによって物を巻上げ、ブームの上下・回転動作をなし得られる機械。

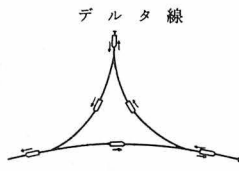
垂直柱を支持する方法から2種類に分けられ、柱の頂上から四方に鋼索を張り渡し、それぞれの先端を基礎に取付けたものをガイデリック(guyderrick)といい、垂直柱を2本の支柱でささえたものをスチフレックデリック(stiff-legderrick)という。



デリッククレーン

巻揚げ、上下の動作は複胴ウィンチによってなされ、つかみバケットを有するものは三胴ウィンチを必要とし、回転動作はウィンチのシンガーにより垂直柱根元の水平みぞ車を回して、これを行う。(福山健治)

デルタせん デルタ線 (英) delta siding (独) Drehbahn; Gleisdreieck 機関車または車両の転向をするため三角形に配置された線で、転車台を設けるかわりに用いられる。三角形の1頂点の方向から進入して順次他の2頂点で折り返し運転をすれば簡単に転向できるが、この3つのポイントにスプリングポイントを用いることによって、転轍(てんてつ)手を省略することもできる。



折返線は転向すべき機関車または車両の長さには十分な有効長を採り、通路線の半径は120~160mとする。三角線とも称せられる。

一回の転向に要する時分は、転車台による転向に比して相当長くなる上、広大な面積を必要とするので、最近あまり新設されることがない。

終端駅付近の本線で形状が三角形となり、駅または信号場がある場合、これを利用して特別急行列車等を編成のまま転向する場合もある。(西田正之)

テルハ (英) telpher わが国で発達した独特のもので、*手小荷物取扱設備としての跨線テルハと、貨物扱としての貨物テルハの2種がある。また少数ではあるが石炭の取扱に使用するつかみ付テルハもある。

1 跨線テルハ

この機械は手押車で荷物を積んだまま巻上げ、完全に上げきった位置で線路を越えて横行し、他の側のホーム真上に停止して、ふたたび手押車をホーム面に降す装置である。操作は遠方制御で、ホーム上の押ボタン1つで以上の一連の動作を自動的に行うのである。能力は1tと2tとあり、1tは荷物を満載した手押車を1車、2tは2車を同時に運搬する。